

小国川の環境を守るため、最上小国川流域環境保全協議会（環境協議会）を発足しました



1月20日(火)午後1時から、山形市の山形県建設会館で、第1回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

その内容とこれまでの環境調査の概要等についてご紹介いたします。

今後、検討の内容については、順次お知らせしていきます。

【最上小国川流域環境保全協議会の目的】

最上小国川で工事の実施に伴う環境への影響について、法律や条令に準じた調査・予測・評価を行います。

環境の保全に配慮した対策や計画について、専門家や地元代表にはかりながら事業を進めるために設置します。

【環境協議会の委員について】

委員は、森林・生物・河川環境などの専門家、地元代表、地元行政担当の12名です。今回は9名の出席でした。

委員は、次のとおりです。（敬称略；五十音順です。）

- 今井 正(欠) 山形北部希少ワシタカ研究会 会長
- 梅田 信 東北大学大学院工学研究科 准教授
- 大場利秋 最上小国川・観光築「川の駅；ヤナ茶屋もがみ」代表
- 加藤 孝 舟形町振興課 課長
- 萱場祐一(欠) 独立行政法人土木研究所
自然共生研究センター センター長
- 岸 善六 最上町建設課 課長
- 小林 仁 最上町区長連絡協議会 会長
- 柴田眞利 赤倉温泉観光協会 会長
- 高橋邦美 舟形町連合町内会 会長
- 中島勇喜 山形大学 理事（副学長）
- 原 慶明(欠) 山形大学理学部生物学科 教授
- 横倉 明 日本蝶類学会 理事

小国川漁業協同組合に委員の就任をお願いしていますが、まだ了解が得られていません。今後とも参加をお願いしていきます。



中島委員長



今回は、環境協議会を設立するとともに最上小国川におけるダム事業及び環境について、概要説明を行いました。

委員長に山形大学中島副学長（森林学・砂防学専門）が選ばれました。

議 事

- 1)治水対策事業の概要、2)周辺環境の概要、
- 3)今後の予定、について説明しました。

委員から出された主な質問は次のとおりです。

質問 今後の公表のあり方は？

回答 公開を原則とします。

なお、重要種の情報や個人情報等については公表しないこともあります。

質問 漁協へは今後も委員会への参加を要請していくということでしょうか。

回答 今後ともお願いしてまいります。

最上小国川ダム建設事業においては、環境に関する法律や条令に準じた検討を行うとともに、環境協議会にはかり、環境に十分配慮しながら、事業を進めてまいります。

最上小国川ダムの環境影響評価の考え方について

環境調査について

大規模な事業を行う場合、工事をすることで自然環境などに大きな影響を与えることがあります。そこで、環境に及ぼす影響を予測・評価し、環境を保全するための対策が必要になります。

事業を行う前の環境がどのような状況にあるかを調べるため、環境調査を行っています。

環境影響の評価に関する基本的な考え方

「環境影響評価法」及び「山形県環境影響評価条例」で調査が必要となる基準は、ダム事業では貯水池面積が75ha以上となるものが対象です。

最上小国川ダムの貯水池面積は27haですので、環境影響評価法及び県条例で定める対象面積以下のため、必ずしも必要なものではありませんが、法律や条例に準じた調査・予測・評価を実施します。

これまで行ってきた主な環境調査

動物・植物調査

調査年度	調査区分	調査実施項目
平成10年度 平成11年度	現地調査 (陸域)	植物、哺乳類、鳥類、 両生類、爬虫類、昆虫類
平成12年度 平成13年度	現地調査 (河川域)	魚類、底生動物
平成14年度	現地調査 (陸域・河川 域の追加・ 補足調査)	猛禽類、魚類
平成15年度		猛禽類、植物、哺乳類、 昆虫類、付着藻類
平成16年度		猛禽類、哺乳類、両生類、 鳥類、魚類
平成17年度		猛禽類
平成18年度		猛禽類
平成19年度		猛禽類、鳥類、付着藻類
平成20年度		猛禽類、付着藻類

底生動物とは、水中に住む貝・ミズ・昆虫の幼虫などです。

水環境調査

調査箇所：4地点（保京橋下流、末沢川合流点上流、月楯橋下流、舟形橋）

調査期間：平成10年度から毎年

調査頻度：月1回、濁水発生時2回、計14回/年

調査項目：天候・気温・水温・濁度・
外観・透視度・臭気・pH・
BOD・COD・SS・DO・
大腸菌群数など

動物・植物、水環境などについて、平成10年度から環境調査を行ってきました。

動物・植物調査の結果

調査位置と規模

- ・最上町赤倉地区上流部
延長約3km、概ね500ha
 - ・最上川合流点から赤倉地区上流部付近まで
延長約42km、概ね400ha
- 小国川流域を広く調査したところ、多種多様な動物・植物が確認されました。

種類	確認された種の数	重要種の数
植物	129科805種	19科29種
哺乳類	12科 20種	4科5種
鳥類	31科 83種	10科17種 (猛禽類以外)
		2科11種 (猛禽類)
爬虫類	2科 4種	なし
両生類	6科 12種	3科4種
昆虫類	194科1,436種	6科6種
魚類	9科 20種	4科4種
底生動物	68科153種	2科2種
付着藻類	16科 65種	なし

環境に影響を及ぼさないよう事業を進めてまいります。

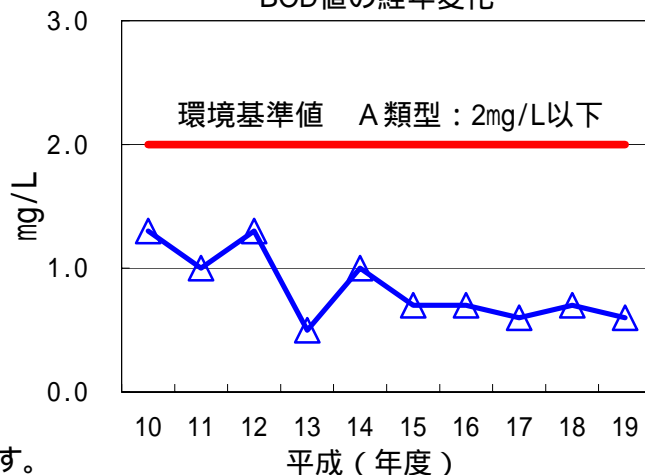
水環境調査の結果

水環境については、4地点のpH・BOD・COD・SS・DO等、いずれも環境基準に適合していました。

舟形橋地点のBOD値は、環境基準の2mg/Lよりも小さく、近年は概ね1mg/L以下でした。

下図の舟形橋以外の保京橋下流、末沢川合流点上流、月楯橋下流地点でも、同様に基準値以下でした。数値の上でもきれいな河川であることが分かります。

最上小国川 舟形橋(環境基準点)
BOD値の経年変化



環境用語の解説

BOD (生物化学的酸素要求量)

河川の有機汚濁を測る代表的な指標です。水中の有機物(汚染物質)などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量を表したもので、数値が大きいほど水質は悪いと言えます。

BODが10mg/L以上になると、悪臭が発生する場合があります。

[訂正とお詫び]「小国川だより第7号」の「最上小国川ダム計画」の「流量配分図」の中で絹出川合流点と明神川合流点の間の流量の数値が [370] となっていました。訂正して、お詫び申し上げます。

550

550

370

創刊号…報告会のお知らせ
第2号…H19・H20調査内容
第3号…治水対策の手法
第4号…河川改修案
第5号…温泉への影響
第6号…温泉影響調査報告会
第7号…ダム計画

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課 最上小国川ダム建設室

〒996-0002 山形県 新庄市 金沢 大道上 2034

お問合せ先 電話 0233-29-1407 亀井、高橋

Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バック
ナンバー